

石川女郎、大伴宿禰田主に贈る歌一首

一二六番

みやびをと 我は聞けるを やど貸さず 我を帰
せり おそのみやびを

大伴宿禰田主の報へ贈る歌一首

一二七番

みやびをに 我はありけり やど貸さず 帰しし
我そ みやびをにはある

同じ石川女郎、更に大伴田主中郎に贈る歌

一首

一二八番

我が聞きし 耳によく似る 葦のうれの 足ひく
我が背 つとめたぶべし